

**私は得する人生を目指していますが、
徳を積む人生にはなれません。**

私は思いがけないサービスを受けたり、値引きをしてもらったり、自分が得する事に出逢うと有難いと思いますが、自分が徳をする事(ボランティアや寄付募金、何の得にもならない行為)には消極的です。得を喜び、徳を嫌っているのが私なのです。

この愚かな行為をする人間を、親鸞聖人は「煩惱成就の人間」と言われました。今で言えば、「苦しみに変換するエネルギーで動いている人間」といえると思います。

そこで仏教には、愚かな行為を止める二種類の方法があります。一つは、得する人生を捨てて、徳する人生を歩む仏道修行があります。

しかし、親鸞聖人はどう頑張ってもせいぜい苦しみの海に浮いたり沈んだりするだけで、根本解決にはならないと気付かれたのです。

もう一つの方法は、阿弥陀仏がすべての命を救済する絶対真理を与えて下さる方法です。それが、なもあみだぶつのお念仏です。

私達は徳する行為を追い求めても、だんだん得する行為を実行しているのです。

阿弥陀仏は「得する生き方しかできないのだからそのままでもいいから、なもあみだぶつを唱えて下さい」と願っているのです。

私が神社仏閣で「宝くじ当たりますように！」と願う以上の思いで、阿弥陀仏は私に願っています。

私の願いが成就したら、「御利益あった！」と慶ぶように、阿弥陀仏は私がなもあみだぶつを唱えると、「善かった！」と慶んで下さっているのです。

神様仏様が人間の欲望に一々耳を傾けて御利益を与えなくてもいいはずなのに、どうして神様仏様にとって何の得にもならない御利益を、私に与えて下さるのでしょうか？それが神様仏様の徳なのです。その徳を頂いて得を求めて生活している人を念仏の行者といいます。合掌

写真は琵琶湖白ひげ浜

